

## ハチ公と上野先生の出会いから死まで

飼い主の上野秀次郎先生への忠誠心で有名なハチ公であるが、もとは上野先生の愛犬の代わりに手配された犬であった。というのも、上野先生が愛犬を失った際に教え子が秋田県大館に頼んで送ってもらった犬が、ハチ公であったわけである。当時、先生の娘である千鶴子は新しい飼い犬に喜んだが、妻の静子は反対し、上野先生もあまり乗り気ではなかった。

ハチ公という呼び名が有名であるが、それは新聞で報道された後につけられた名前であり、上野家ではハチと呼ばれていた。ハチの名前の由来は「末広がり」であるという説やア、座った時の足が八文字に来ていたからであるなど諸説があるが本当のところはわかっていない。

本来は犬を可愛がっていた娘が嫁入りする機会に犬を誰かに譲ろうと考えていたそうだが、その頃にはハチに上がわいており、手放さない決断をする。散歩に連れていき、風呂にいれ書斎でともに寝るほどのかわいがり様であったそうである。はちも、上野先生の出勤時には最寄駅の渋谷駅まで毎日おくり、帰宅時は渋谷駅まで迎えにいていた。それほどに二人の絆は深いものであった様である。

上野先生とハチ公の別れは突然訪れる。まだハチ公を飼い始めて一年あまりの頃上野先生は農学部の教授会議の後に脳出血で急死してしまう。その後妻が娘の嫁ぎ先へ移りハチは浅草の親戚の家に預けられるが、ハチは度々渋谷まで脱走し、近所の畑などを荒らすなど問題を起こす。最終的に上野家に入入りしていた植木職人の菊さんに引き取られることになる。

有名な映画「ハチ公物語」では菊さんも急死してハチ公は野良犬になるが、実際のところ菊さん夫妻はずっと生きておりハチ公の世話をしていた。さらに、ハチは忠犬ハチ公像の除幕式に実際参列していた。確かに一匹で渋谷駅前に現れていた頃は駅員や露天商にいじめられていたようだが、新聞に出た後は一般人に可愛がられるようになったようである。

ハチ公の死因はフェラリアへの感染という説がある。犬の飼育の知識に乏しい時代であったからか、善意で与えられた食べ物に犬にとって有毒なネギなども入っていたのではと考えられている。予防薬も与えられることなく、最後は渋谷駅前ではなく目立たない場所でひっそりと息を引き取ったようである。

農学部として、こういった食中毒によってかの有名な忠犬ハチ公が死んでしまったことを知って少し考えさせられた。また、ネギが犬にとって有毒であることと、溝口先生がおっしゃっていた焼き鳥屋で焼き鳥を恵んでもらっていたという話がすこし繋がった。はらに串が入っていたほどである。相当無心でくっていたことであろう。その焼き鳥の中にねぎまが入っていようものなら、ハチ公のフェラリアへの感染原因の一つではなかったのか。

そのような事実には、農学部として正しい知識を世に提供していくことの意味を再確認した。